

## 第1学年 国語科学習指導案

日時 平成26年10月10日(金) 公開授業1  
単元名 お気に入りの動物をお家の人に教えよう  
教材名 「しらせたいな、見せたいな」  
児童 男子 7名 女子 6名 計13名  
指導者 佐々木 祐子

### 1 本単元で取り上げる主たる指導事項

- B書くこと ア 経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること。  
ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと。

### 2 身に付けさせたい力(視点1との関わり)

- 愛農農場の動物を詳しく観察し、形や様子・動きなどをメモする力  
○知らせたいことが伝わるように、一つの事柄を主語と述語の関係に注意して様子を伝える文を書く力

### 3 単元を貫く言語活動とその特徴

単元を貫く言語活動 (第1・2学年 言語活動例 Bウ)

愛農農場の動物を観察し、見付けたことを家の人に知らせる説明文を書くこと

#### [設定の理由]

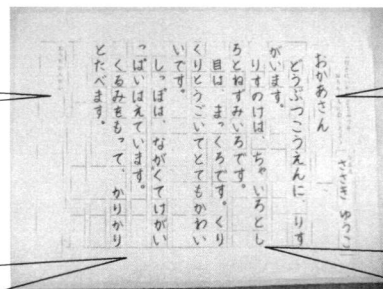
本単元を貫く言語活動として、「愛農農場の動物を観察し、見付けたことを家の人に知らせるために説明文を書くこと」を位置付けた。これは、愛農農場で遊んだ動物の中から知らせたい動物を決め、観点に沿って観察し、見付けたことを家の人に説明する文を書くものである。見付けたことを説明する文章を書くには、まず、対象を詳しく観察し、動物の特徴となる事柄をたくさん集めなければならない。そして、その特徴が伝わるようにつながりのある文章を書く必要がある。従って、本単元でねらう「経験したことや想像したことなどから書くことを決め、書こうとする題材に必要な事柄を集めること」(B書くことア)と「語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くこと」(B書くことウ)を実現するのにふさわしい言語活動であると考えた。

#### [様式]

- ・愛農農場の動物の中からお気に入りの動物について、色・形・大きさ・触った感じ・動きなどを書くことを位置付ける。
- ・知らせる相手の名前と説明文、家の人感想を入れる。
- ・説明文は100字から140字程度とする。
- ・本単元で児童が書く説明文は、次のような構成をもっている。

家の人に感想を書いてもらう。

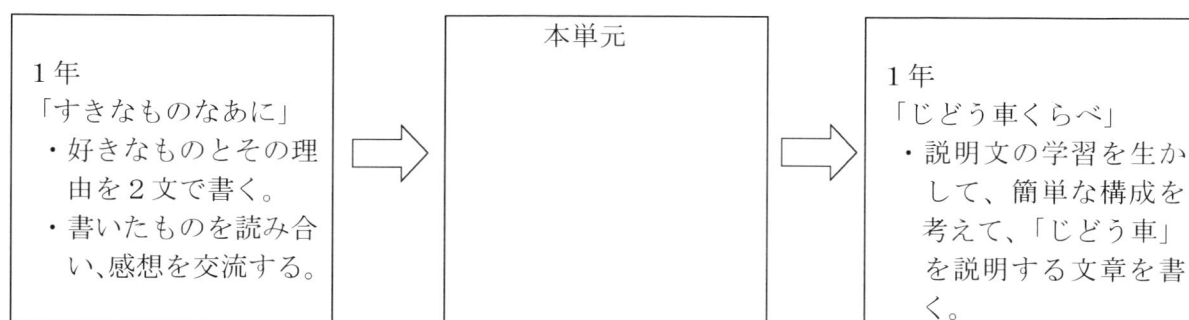
教えたいことを取捨選択し、書く順序を考えて、説明する文章を書く。(書くことウ)



教える相手をはっきりと意識させる。

「見つけたよカード」のメモを事柄ごとに一文に書く。(書くことア)

〔言語活動の系統性〕



#### 4 単元について

##### (1) 児童について

児童は、これまでに「すきなもの、なあと」で、自分の好きなこととその理由を2文で表すこと学習をした。「かけるようになった」では、日記や手紙に書くことを決め、語と語、文と文とのつながりに注意して書く学習をした。その後、「あのねノート」を活用して、日常の出来事を書いている。これらの学習を通して、児童は、書くことを積み重ね、文を書くことに少しずつ慣れてきている。しかし、生活科の探検を振り返るカードに何を書かなかかなか決められない児童や、書きたいことがあっても、どのように書けばいいのか分からず、支援を必要とする児童もいる。また、主語と述語の関係がねじれた文を書く児童もいて、語と語や文と文との続き方に注意しながら、つながりのある文や文章を書くにはまだまだ学習が必要である。

##### (2) 教材について

本単元は、学校生活の中から家の人に知らせたいものを選び、それぞれの視点からよく観察し、文章に書いて伝えるものである。対象をしっかり観察して細かいところを見つけ、書きたいことをはっきりさせてから文章を書くという学習の流れは、児童にとって取り組みやすい表現活動といえる。今回、児童が家の人に伝えようとする題材は、直前の生活科の校外学習でふれ合った愛農農場のかわいい動物の中から選んだお気に入りの動物である。お家の人に知らせるといって目的を持って観察したことを文章に書くことで、書いて知らせる喜びや、自分が書いたものを相手が読んで理解してくれる喜びを体験できる教材である。

##### (3) 指導にあたって

第1次では、「愛農農場で遊んだ動物の中からお気に入りの動物をお家の人に教えよう」という言語活動を設定する。完成した説明文は、お家の人にプレゼントして感想を書いてもらうというゴールを示すことにより、児童の学習への意欲が高まると考える。また、教科書の絵とモデル文から、よく見るということは、動物を注意深く見て、部分ごとにいくつもの事実を見つけること、五感を使って事実を集めると、より詳しく分かりやすくなることをとらえさせたい。

第2次では、動物を観察する視点として、「色」「形」「大きさ」「触りごころ」「動き」など、具体的に視点を与え、五感を使って詳しく観察してメモできるようにしたい。また、見つけたことをメモする活動は初めてなので、教科書のモデルを見て書き方を確かめる。「見つけたよカード」に書き込んだ言葉を文にする段階では、スモールステップでどのように文にしたらよいかおさえ、見つけたことを分かりやすく書けるようにしたい。また、短冊カードから文章にする段階では、児童なりの考えで書く順番を検討し、文章を完成させる。

第3次では、お家の人にプレゼントし、読んでもらった時の様子を発表したり、お家の人からの返事を読んで思ったことを発表したりして、自分が書いたものを読んで理解してくれる喜びを感じ取らせたい。

5 単元の指導目標と評価規準

<p>○ 知らせたい動物の特徴を進んで観察したり、文章に書き表したりしようとしている。 【国語への関心・意欲・態度】</p> <p>○ 五感を働かせて観察し、書くための材料を集め、形や様子・動きなどを伝える文章を書くことができる。 【書くこと】</p> <p>○ 主語と述語を照応させて、分かりやすい文を書くことができる。 【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】</p>		
国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○五感を働かせて観察したり、見付けたことを知らせたという思いを膨らませて、説明する文を書こうとしている。	○説明したい動物を詳しく見て見付けたことを単語や短い文でメモしている。【書ア】 ○動物の特徴や動きなどが伝わるように、様子を表すのにふさわしい言葉を使って書いている。【書ウ】	○主語と述語を照応させて文を書いている。【伝国イ(カ)】

6 単元の指導計画（全8時間）

次	時	目標・主な学習活動 ☆ 単元を貫く言語活動につながる学習活動	評価規準
第1次	1	○愛農農場で遊んだ動物を家の人に教えるために、よく見て分かりやすい文章を書くという学習の見通しを持つことができる。 ・教師のモデル文を見て、単元のゴールを知る。 ☆学習課題を設定し、学習計画を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">おきにいりのどうぶつを おうちの人におしえよう。</div>	【関】 「愛農農場で遊んだ動物をお家の人に教えよう」という課題を理解し、説明文を書くときに大切なことを見付けようとしている。
	2	○教科書のモデル文をもとに、文章の書き方について見通しを持つことができる。 ・教科書の絵と文章から分かることや上手だと思ったことを発表する。 ・「見つけたよカード」や文章を書くときのめあてを考える。 ☆動物の様子を教える文章の書き方を知る。	
第2次	3	○教科書のモデルをもとにして、「見つけたよカード」に書き込むことができる。 ・「見つけたよカード」に単語や短い文で見付けたことを書き込む。 ☆教えたい動物を観察して見付けたことを「見つけたよカード」に書き込み、書くために必要な事柄を集める。	【書ア】 知らせたい動物を観察して見付けたことを単語や短い文でメモしている。 【書ウ】 動物の特徴や動きなどが伝わるように、主語や様子を表すことばを使って書いている。 【伝国イ(カ)】 句読点や文字を正しく表している。
	4	○「見つけたよカード」を友達と見せ合い、書き込みを増やすことができる。 ・ペアで見付けたことを教え合ったり、分からないことを確かめたりする。 ☆ペアで「見つけたよカード」を見せ合うことで、書くことに必要な事柄を増やす。	
	5	○メモを文にすることができる。	

	本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを文にするときの文型を知る。 「〇〇は～です。」「□□すると～します。」</li> <li>・見付けたことをもとに、一つの事柄を一つの文に書く。</li> <li>☆見付けたことをもとに、文型に沿って一つの事柄を一つの文に書く。</li> </ul>	
	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○考えた順番に沿って文章を書くことができる。</li> <li>・書く順番を考えて短冊カードを並べる。</li> <li>・書き出しを考えて文章を書く。</li> <li>・句読点や文字が正しく書けているか読み返す。</li> <li>☆児童が考えた順番に沿って文章の下書きをする。</li> </ul>	
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧に清書して仕上げ、友達と読み合う。</li> <li>・お家の人に読んでもらうことを確認し、丁寧な文字で清書する。</li> <li>・清書したものを友達と読み合って感想を交流する。</li> <li>☆教えたことが伝わるように書いているか読み返す。</li> </ul>	
第3次	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習したことを振り返る。</li> <li>・お家の人からの返事を読み、思ったことを発表する。</li> <li>・お家の人に伝えるためによく観察したり、様子を表す言葉を使って文章を書いたりすることのよさを確かめる。</li> <li>☆これまでの学習を通して思ったことを発表する。</li> </ul>	【関】 これまでの学習を振り返り、よく観察したり、様子を表す言葉を使って説明する文章を書くことのよさに気付いている。

## 7 本時の指導

### (1) ねらい

「見つけたよカード」に書いたことをもとに、一つの事柄を一つの文に書くことができる。

### (2) 視点2に関わって

- ・教師が不完全なモデル文を提示し、主語を意識させる。
- ・教科書のモデル文から見付けた文型を確認する。  
「〇〇は、～です。」「□□すると、～します。」
- ・一つの事柄を一つの文に書くように短冊カードを用いる。

### (3) 展開

段階	主な学習活動	留意事項と評価
導入 2分	<p>1 本時の学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">「見つけたよカード」にかいたメモをぶんにしよう。</div>	
展開 38分	<p>2 カードの言葉をどのように文にするか考える。</p> <p>(1) 教師のモデル文を読み、どんなことが書かれているか考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto; text-align: center;">くろです</div> <p>(2) お家の人に教えるためには、どのように書いたらいいのか考え、文にする。</p> <p>(3) 考えた文を発表し合い、カードの言葉をどのようにして文にしたらいいの見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「見つけたよカード」のこぼを使った述語だけのモデル文を提示し、述語だけではわかりにくいことに気付かせ、主語を意識させる。</li> <li>・考えた文は口頭で発表させる。児童が考えた文は短冊カードに書き込む。</li> </ul>

	<p>メモを文に書くときのポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「○○は、～です。」を使って書く。</li> <li>・メモの言葉を使ってくわしく書く。</li> <li>・文の終わりには「。」をつける。</li> <li>・「○○は」の後に「、」をつける。</li> </ul> <p>3 自分の知らせたい動物について、「見つけたよカード」の言葉を文にする。</p> <p>(1) 考えたことをもとに、自分の知らせたいことを文に書く。</p> <p>(2) 時間内に書いた文を、教科書の観点に沿って読み返す。</p> <p>(3) ペアで文を読み合い、書いた文の意味が分かるか確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書いたところまでの文を読み合う。</li> <li>・動物の様子が分かったかを伝え、マークを書いてあげる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つのことを一つの文に書かせる。</li> <li>・短冊カードを用意し、書きたいところから書かせる。</li> <li>・「見つけたよカード」のメモから3つ以上は書けるよう意欲付けを図る。</li> </ul> <p><b>【評価】</b></p> <p>B動物の特徴や動きなどが伝わるように、主語や様子を表す言葉を使って書いている。</p> <p>支援の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進まない児童には、写真を手がかりにして個別に聞き取り、口頭で言わせる。</li> </ul>
<p>終末</p> <p>5分</p>	<p>4 本時の学習を振り返る。</p> <p>5 次時の学習内容を確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メモを文に書くときのポイントに従って自己評価させる。</li> <li>・メモを文にするときに気を付けることを板書で確かめる。</li> <li>・次時は、短冊カードの順番を考えて文章を書くことを伝える。</li> </ul>

(4) 板書計画

<p>かいたら よみかえしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぶんのおわりに(○)がついていますか。</li> <li>・「○○は」のあとに (○)をつけていますか。</li> </ul> <p>・字は、正しく かけていますか。</p> <p>「は」「へ」「を」</p>	<p>児童の文</p> <p>はねのいろは、くろとちやいろとしろです。 はねは、くろとちやいろとしろです。</p>	<p>写真</p>	<p>くろです</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・○○は、くです。</li> <li>・くわしく かく。</li> <li>・ぶんのおわりに「。」。</li> <li>・「○○は」のつぎに「、」。</li> </ul>	<p>おきにいりのどうぶつを おうちのひとにおしえよう</p> <p>「見つけたよカード」にかいたメモを ぶんにしよう。</p>
---	---	-----------	--	--